

子どもたちの 学力の向上を目指して

～平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果概要～

昨年の4月18日（火）に全国一斉で学力・学習状況調査が行われました。当日は、洞爺湖町をはじめ、胆振のほとんどの市町が暴風雨による臨時休校のため後日調査となりました。



児童・生徒の学力向上には、学校はもちろん、保護者や地域の皆さんにも現状を理解してもらい、学校・家庭・地域が連携していくことが必要なことから、調査結果の概要をお知らせします。また、町のホームページでは、児童・生徒質問調査、学校質問調査なども掲載します。

■問合せ 教育委員会管理課学校教育グループ (☎ 74-3009)

調査の対象

町内の小学校6年生 43人（3校）
町内の中学校3年生 69人（2校）



調査の内容

①学力調査

- ・主に「知識」に関する問題～A問題（国語A、算数A、数学A）
身に付けなければ後の学習内容に影響を及ぼし、実生活で不可欠な知識や技能を問うもの
- ・主に「活用」に関する問題～B問題（国語B、算数B、数学B）
知識や技能などを実生活のさまざまな場面に活用する力を問うもの

②質問紙調査

- ・児童・生徒質問調査（生活・学習習慣に関すること）
- ・学校質問調査（学習指導に関すること）



学力調査の結果

1. 各教科の平均正答率

解答発表後に実施したため、参考記録となります。

数字は平均正答率で、平均正答率は各平均正答数を設問数で割った値の百分率です。都道府県と市町村の平均正答率%は、文部科学省方針で小数第3位四捨五入表示としています。

■小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
洞爺湖町	76%	53%	78%	39%
北海道（公立）	74%	56%	77%	44%
全国（公立）	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%

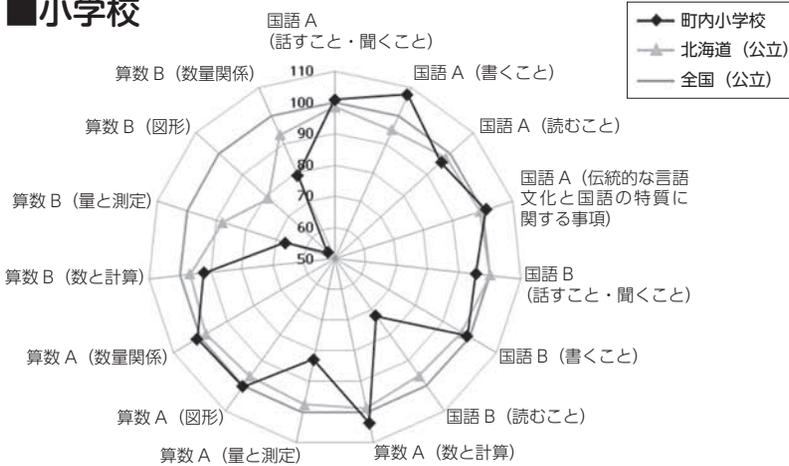
■中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
洞爺湖町	75%	66%	58%	42%
北海道（公立）	77%	72%	64%	47%
全国（公立）	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%

2. 各教科の状況

教科の領域別に全国を100とした場合の全道と洞爺湖町の状況をレーダーチャートで示したものです。町内全ての学校が後日実施のため、目安として示しています。(洞爺湖町の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

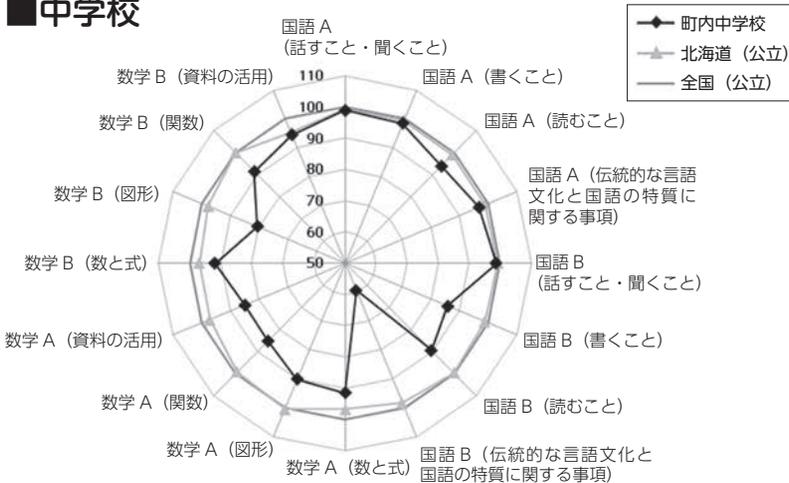
■小学校



分析

- ・国語 A・B では、「書くこと」が他の領域より高くなっています。
 - ・算数 A・B では、「数と計算」が他の領域より高くなっています。
- ※全ての学校が後日実施のため、全国平均正答率との差ではなく、領域別の状況を分析しています。

■中学校



分析

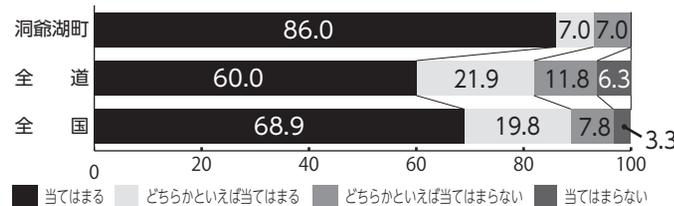
- ・国語 A・B では、「話すこと・聞くこと」が他の領域より高くなっています。
 - ・数学 A では、「数と式」が他の領域より高くなっています。
 - ・数学 B では、「資料の活用」が他の領域より高くなっています。
- ※全ての学校が後日実施のため、全国平均正答率との差ではなく、領域別の状況を分析しています。



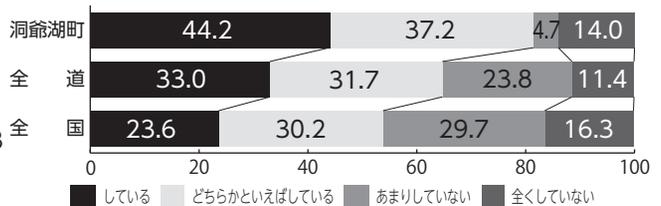
児童・生徒への質問

■小学校

Q 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた

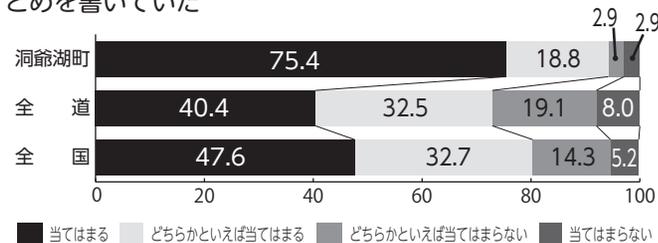


Q 家で学校の授業の復習をしている

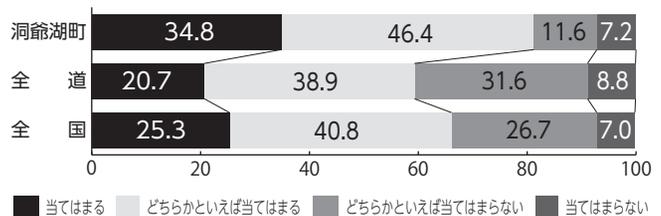


■中学校

Q 授業で扱うノートには、目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた



Q 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた

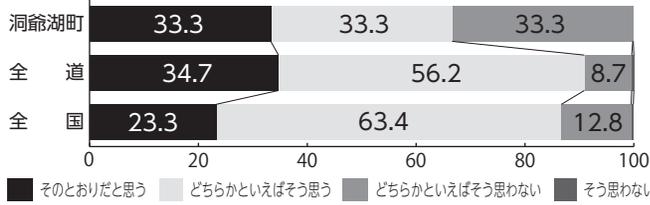




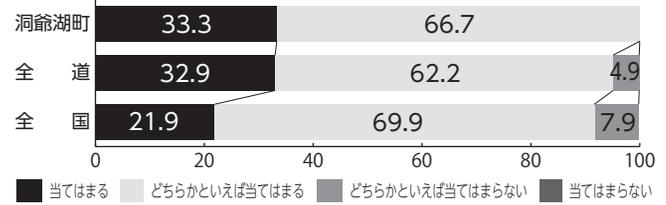
学校への質問

■小学校

Q 学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる



Q 自ら設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができる

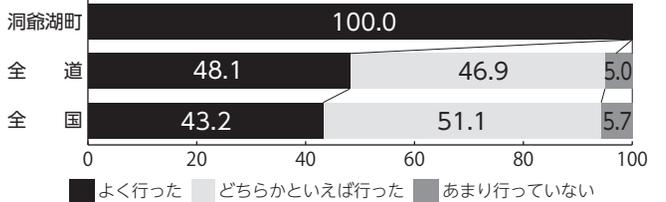


■中学校

Q 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた



Q 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた



分析

■小学校

○児童への質問から

- ・「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っています。
- ・「家で学校の授業の復習をしている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っています。

○学校への質問から

- ・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている」と回答した学校の割合が、全国を上回っています。
- ・「自ら設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っています。



児童が授業で扱うノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書く習慣が身に付いたことにより、授業の学習内容を家庭で振り返るようになり、家庭学習の習慣化が図られたと考えられます。

授業において、児童がグループでの話し合いなどの活動で、目的意識をもって相手の考えを最後まで聞くことにより、児童が主体的に学習に取り組むようになったと考えられます。

■中学校

○生徒への質問から

- ・「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っています。
- ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っています。

○学校への質問から

- ・全ての学校が、「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた」と回答しています。
- ・全ての学校が、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」と回答しています。



町全体で、授業における目標の提示や振り返りの位置付けについて共通理解を図り、各学校が組織的に取り組んだことにより、生徒が学習の見通しをもち、主体的に取り組むようになったと考えられます。

各学校の授業において、導入で目標を明確に示し、終末で学習内容を振り返る活動を位置付けたことにより、授業改善が図られ、学習内容の定着につながったと考えられます。



洞爺湖町の学力向上への取り組み

- ①洞爺湖町スタンダード10研修委員会で策定した「洞爺湖町自立的学びのためのスタンダード10」の全町的取り組みへの支援
- ②長期休業中や放課後の補充学習と町の放課後学習支援（地域未来塾）の実施
- ③教職員の資質向上のための町独自の先進校視察研修の実施
- ④町独自の「標準学力調査（全面改訂版）」の実施
- ⑤支援員の手厚い配置
- ⑥平日、土日の家庭学習強化の取り組みの実施（PTAへの呼びかけ文書の作成など）

